

鹿

蒼苔路滑僧歸寺紅葉丸乾若左林

温庭筠

暗遣食苹身色變更随加草德風来

白鹿 紀

もみちをねごよけのやうよをん

うはめあれるまてやあよをん

ゆもはるよをるものやうよをん

れごよのうらよあよはるよをん

露

可憐九月初三夜露似玉珠月似弓

白

露滴葉葉寒玉白風銜松葉雅琴清

著の

てごよりのあをよをのあよをん

丸持

しよとみろよてたごよのあよをん

霧

竹霧曉龍銜嶺月嶺風後送過江表

和

隆愁夕霧埋人枕猶愛朝雲出馬鞍
うけよりののふもとをふあやふもぬれハ
ふらよそあよれやまはみえける深養父
たのふあれうふたふれらうあよりの
さほのやまべをたちかくすらむ 友則

积文

鹿

蒼苔路滑僧歸寺紅葉声乾鹿在林 温庭
暗遣食苹身色變更隨加草德風來 白鹿紀

もみぢせぬときはのやまにすむし

かはおのれなきてやあきをしるらん 能宣

ゆうづくよをぐらのやまになくしか

のこゑのうちにやあきはくるらむ 貫之

露

可憐九月初三夜露似真珠月似弓 白

露滴蘭叢寒玉白風銜松葉雅琴清 英明

さをしかのあさたつをのゝあきはぎに

たまとみるまでおけるしらつゆ 家持

霧

竹霧曉籠銜峯月蘋風緩送過江春 白

雖愁夕霧埋人枕猶愛朝雲出馬鞍 江相公

かはぎりのふもとをこめてたちぬれば

そらにぞあきのやまはみえける 深養父

たがためのにしきなればかあきじりの

さほのやまべをたちかくすらむ 友則